

西浦から漁業改革!

期待の新しい力



1.西浦知明漁港、水揚げされたたくさんのお魚が並びます。2.寿丸の船長である牧原有保さん、8月の寿丸の復活とともにトーンで戻ってきた息子さんと共に乗っています。3.沖合底びき網漁業で、魚獲物を取り上げる様子



大きな目が見えることからメヒカリと呼ばれています。柔らかい身とときどきとした脂が特徴です

メヒカリ(アオメエソ)



喉の奥が深いマドグロと呼ばれ、上品な味で高級魚として全国的に知名度が上がっています

マドグロ(アカムツ)



濃厚な甘味が特徴で、伊勢エビにも勝ると言われるほど、市内のレストランやホテルとのコラボメニューも人気です

アカザエビ

DATA 蒲郡漁業協同組合 西浦支所 TEL.0533-57-6155 <http://gamagori-gyokyo.com>

蒲郡漁業協同組合西浦支所に所属する

「寿丸」が、昨年の夏に生まれ変わりました。

新しい設備と若い乗組員の力で、

蒲郡の漁業再生の舵取り役として

期待されています。



蒲郡市漁業協同組合西浦支所 船長 牧原有保さん

蒲郡市の漁業の主力は底びき網漁業。中でも水揚げの柱になっているのが沖合底びき網漁業です。船から網を海底に投入し、船で引いて魚を獲る方法で、海底に生息する深海魚を効率よく獲ることが可能。県内の沖合底びき網漁船の4隻全てが蒲郡漁業協同組合の所属船で、いまの時期はアオメエソ(通称メヒカリ)やニギスが水揚げされています。

漁業は時代の流れとともに、漁獲量の減少や魚の価格低迷、漁師の高齢化といった多くの問題を抱えています。蒲郡でも、年配の漁師の中には自分たちの代で終わらせなければならぬと嘆く声も聞こえてくるほど。沖合底びき網漁船も30年ほど前は約7隻、20年前には約20隻が活躍していたそうです。

新しい船と若い人材

漁業を盛り上げる一助として改革型漁船を建造し、昨年9月より操業を開始したのが沖合底びき網漁船の「寿丸」こ

ブランド化を進める

蒲郡市では、漁業を発展させて次の世代に伝えていくためにも魚のブランド化が必要だと考えています。ブランド化は市外へのPRにもなり、魚の価格、漁師の収入アップに繋がります。その取り組みの代表的な魚がメヒカリです。「蒲郡メヒカリ」の名前で地域団体商標登録を目指しており、キャラクターの「びか丸くん」(商標登録済)を生かせるなど、知名度の向上に意欲的です。昔はメヒカリという家庭で作られる佃煮のイメージだったけれど、今では唐揚げなど、市内の飲食店でもいろいろなお店が広まってきました。スポーツ選手がインタビューの中で食べたいと発言し、話題になったことも記憶に新しいアカムツ、通称マドグロも、沖合底びき網漁業で捕る魚なんです。幸田の人にもぜひ知って欲しいですね。牧原さん。他にもアカザエビやニギスなど、飲食チェーン店や地元水産高校と協力し、新しい商品開発にも力を入れています。

漁業は魅力ある仕事

9月から新しく漁師となり、寿丸の乗組員となった田中恒之さんに話を聞きました。田中さんは、以前は魚釣りが趣味のサフリーマンだったそう。「漁師は頑張れば頑張ったぶん、自分にかえってくる仕事なのでやりがいがあります。たくさん魚が

とぶきまる」です。漁業の課題を解決すべく、様々な取り組みと設備が導入されました。海水を殺菌する装置や海水を細かい水にする装置といった最新式の設備を搭載。魚をより新鮮な状態で保つことができ、魚価格の向上も見込めます。このほかにもこの船で重視されたのが漁師の負担を減らすことです。船内の安全性を向上させることで安心して仕事に従事できるように。また、定期的な休みを確保し、乗組員の疲労回復やプライベートの充実を図りました。

蒲郡市漁業協同組合・西浦支所の牧原さんは、この船の最も大きな希望は、若い乗組員が活躍していることだと話します。「他の船は平均60歳前後の漁師が中心のなか、寿丸は20代、30代の若い人が活躍しています。この船で若者が経験を積んで一人前になり、さらに下の世代に受け継いでいってもらえたら嬉しいですね」寿丸は様々な面で、これからの漁業を活気づける将来性が大いにあります。

獲れた時の喜びは大きく、楽しいです。出来る事もどんどん増えていくので常に成長できるという魅力も大きいですね。なかでも沖合底びき網漁業には将来性があり、とても夢がある職業だと思います。現在蒲郡市では漁業に若い力を引き入れようと支援制度も取り入れ、漁師を目指す人へのサポートも行っています。

近年は自宅で魚を調理する家庭が少なくなり、海が身近な蒲郡市でも、魚が苦手な子どもが増えているそうです。蒲郡市漁業協同組合では、地域の小学生とアマモの増殖作業を行っています。海の生き物に触れて少しでも魚に興味をもってもらう、将来を担う子ども達に漁業の魅力をもっと知ってほしいと願っています。

最後に牧原さんは、「愛知県は自動車産業が盛んだけれど、漁師もまだまだ捨てたもんじゃありません。寿丸や魚のブランド化の活動など、漁業全体に意気込みがある。これからも様々な改革をして、この地の漁業を次世代に繋げていかなければいけない」と話してくれました。

設備と人に新しい力が加わって、西浦の今後の漁業には大いに魅力があります。

また、2月6日(土)7日(日)に行われる農林水産まつりでは、メヒカリの唐揚げや、ニギスの団子汁が味わえます。家族で訪れ、蒲郡の魚や漁業に親しむきっかけにはいかがでしょうか。

news!

2月6日(土)7日(日)、農林水産まつりの詳細はP17へ